

3. 5 基本目標5 みんなの力でより良い環境を目指すまち

方針5-(1) 環境教育・環境学習の推進

施策5-① 環境意識の醸成

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現状と課題

■現状

- 調布市では、「環境年次報告書」、「ちょうふ環境にゆ〜す」の発行や、市ホームページ等を通じ、環境に関する情報発信に取り組んでいます。
- また、市民、事業者の協力のもと、「環境フェア」や「緑と花の祭典[§]」等の環境に関するイベントを開催しており、多数の市民が参加しています。
- 学校においては、理科・社会科等の教科や総合的な学習の時間などにおいて、子どもたちが環境について学ぶ機会が確保されています。

■課題

- 環境に関する情報発信をより効果的に実施していくとともに、子どもたちを対象とした環境教育・環境学習の場の創出、市民の意識啓発に取り組むことが必要です。



環境年次報告書



環境フェア



ちょうふ環境にゆーす



多摩川自然情報館 夏まつり

◆施策の方向

様々な媒体を活用した環境に関する情報の発信，子どもたちの環境教育や体験の場や機会の創出，環境関連のイベント，ICT・オンラインを活用した情報や学習機会の提供などを通して，環境に対する関心を高め，意識を醸成します。

◆施策（取組）の内容と主な事業

■ 環境情報の効果的な発信

市内の環境に関する情報，市民が取り組める環境行動，市の取組，環境活動団体の活動に関する情報などの環境情報を，市の広報，インターネット・SNSなど様々な媒体を活用して効果的に発信します。



多摩川自然情報館解説員ブログ

事業内容	担当課
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境情報の収集・発行 (環境年次報告書，ちょうふ環境にゆ〜す等の発行) 	環境政策課
<ul style="list-style-type: none"> ● 市ホームページやSNS等を利用した環境情報の発信 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ICTを活用した新たな環境情報発信方法の検討 重点事業 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 広報誌「ザ・リサイクル」や「ごみリサイクルカレンダー」を活用したごみ減量や分別の周知 	ごみ対策課
<ul style="list-style-type: none"> ● ごみアプリを活用した分別促進に係る啓発 	

■ 学校での環境教育の推進

学習指導要領に基づき理科・社会科等の教科，総合的な学習の時間の実施により，環境教育の推進に取り組みます。また，調布市環境基本計画をわかりやすく解説する子ども向け資料を作成・配布するほか，学校と連携して，環境教育を支援するリーフレット等の作成，講師の派遣等に取り組みます。

事業内容	担当課
<ul style="list-style-type: none"> ● SDGs⁵を含む環境に関する学習機会の提供（再掲） 	指導室・環境政策課
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校授業への講師派遣 	環境政策課
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然体験型環境教育の推進 	指導室

■ 子どもたちへの啓発活動の実施

小中学生向けのイベントや活動プログラム、親子参加のワークショップなど、次代を担う子どもや子育て世代がともに環境について学び、考えることができる場や機会を創出します。

事業内容	担当課
● 中学生版「ちょうふ環境にゆ〜す」の発行	環境政策課
● 小中学生への環境活動機会の提供 重点事業	
● 調布こどもエコクラブでの環境保全・調査活動の実践	
● 調布水辺の楽校 [§] の実施（再掲）	
● ごみ探検隊の事業の実施	ごみ対策課
● 小中学生へのごみ減量啓発ポスター及びちょうふエコ川柳の募集	

■ 市民の環境意識の醸成

環境フェアをはじめとするイベント、環境に配慮したライフスタイルの普及につながるキャンペーン等をインターネット等も活用しながら展開し、環境問題への関心喚起、環境意識の醸成を図ります。

事業内容	担当課
● 多摩川自然情報館における夏休みイベント、多摩川自然情報館まつり、月別イベント等の実施	環境政策課
● 環境フェアの実施	
● 緑と花の祭典 [§] の実施	緑と公園課
● エコフェスタちょうふの実施	ごみ対策課
● ごみ減量啓発ポスターの募集及び入賞作品を活用したごみ減量・リサイクルの呼びかけ	
● ちょうふエコ川柳の募集及び入賞作品を活用したごみ減量・リサイクルの呼びかけ	

◆環境指標

環境指標	基準値	現況	目標値
市報や環境年次報告書等による環境情報の提供回数	104回 (平成26年度)	126回 (令和元年度)	130回 (令和7年度)
環境学習事業への小中学生の参加者数	1,141人 (令和元年度)	1,141人 (令和元年度)	1,260人 (令和7年度)

○市民・市民団体・事業者に期待される役割

- 市が発信する環境情報や市内の環境保全活動への参加等により、調布の環境について理解を深めます。 市民 市民団体 事業者

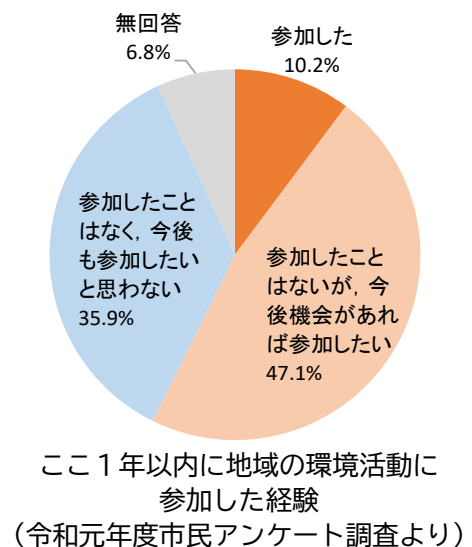


施策5-② 学びと活動体験機会の充実

◆現状と課題

■現状

- 国連及び各国政府は平成 17 (2005) 年から平成 26 (2014) 年にかけて「持続可能な開発のための教育 (E S D) [§]」を推進してきました。その後継プログラムとして「E S Dに関するグローバル・アクション・プログラム (G A P)」が採択されたことを受け、平成 28 (2016) 年には『持続可能な開発のための教育 (E S D)に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画が策定され、様々な関係者が連携して E S Dを推進しています。
- 国や都では、日本自然保護協会の自然観察指導員や東京都自然保護指導員などによる環境学習指導が行われています。
- 調布市では、平成 22(2010)年に多摩川自然情報館、平成 24(2012)年に都立神代植物公園植物多様性センター、平成 25(2013)年にふじみ衛生組合のクリーンプラザふじみが開設され、市民が環境に関して広く学べる拠点施設が整備されました。このうち、多摩川自然情報館については、オープン初年度の入館者数延べ約 5 千人から、令和元(2019)年度は延べ 1 万人を超えました。
- また、市民サポーター等による運営協力のもとで、子どもから大人まで幅広い世代を対象とした、各種環境学習事業を推進しています。
- 令和元 (2019) 年度市民アンケート調査結果から、直近 1 年以内に環境活動に参加したことがある人の割合は 1 割にとどまっているものの、関心を持っている人が半数近くいることが明らかとなっており、参加者を増やすために活動を気軽に体験できる機会や活動に関する情報発信を増やすことが求められています。



■課題

- 環境について学び、活動する人材のすそ野を広げていくため、次代を担う子どもたちや若い世代が、環境について学習できる場や機会の充実を図っていく必要があります。また、地域の環境活動に参加したことがない市民へのアプローチを強化していくため、環境活動に関する情報発信や活動を気軽に体験できる機会の充実などに取り組んでいくことが必要です。

◆施策の方向

環境に関心を持った市民と環境活動団体とをつなぎ、担い手となる意欲をもつ市民を増やしていくため、環境活動団体等と協力しながら、拠点施設やイベントでの環境学習を進めるとともに、気軽に活動を体験できる機会を創出します。

◆施策（取組）の内容と主な事業

■ 地域での環境学習

多摩川自然情報館を中心とした環境学習関連施設や社会教育施設における環境学習事業の推進、with コロナの新しい生活様式を考慮したオンラインの活用も視野に入れた環境セミナー・出前講座の開催などにより、地域における環境学習を推進します。

事業内容	担当課
● 多摩川自然情報館を中心とした市内環境学習関連施設や社会教育施設における環境学習事業の推進	環境政策課 公民館
● 環境学習プログラム・教材の提供	環境政策課
● 幅広い市民を対象とした環境イベントの開催	環境政策課・緑と公園課 ごみ対策課

【コラム】多摩川自然情報館

多摩川自然情報館は、多摩川を中心とした市内の自然環境を紹介する施設です。

館内には多摩川の魚や植物、昆虫などの実物が見られる展示室や、多摩川のミニ生態系を再現したいきものプール、自然環境に関する本をそろえた学習室があり、子どもから大人まで楽しく学べるようになっています。

多摩川や調布の環境について学べる月別イベントや月替わりプログラムなども行っています。



調布市内の多摩川に生息している魚などを展示したおさかなコーナー



月別イベントのポスター及び月替わりプログラムの様子

■ 活動体験機会の創出

環境に関する広報誌や市ホームページ，SNS等を活用し，環境活動団体の活動内容を紹介します。また，市民活動支援センターを通じて，環境活動を行いたい市民等に，環境活動団体の紹介を行います。

深大寺・佐須地域で整備予定の農業公園での農業体験や農業イベントの開催など，気軽に環境学習に参加できる機会を創出します。



深大寺・佐須地域の公有化土地を暫定活用した環境学習

事業内容	担当課
● 環境活動団体の活動内容に関する情報発信	環境政策課・緑と公園課 ごみ対策課
● 深大寺・佐須地域の公有地等における農業体験などの環境学習の推進	環境政策課
● 深大寺・佐須地域の環境資源を活用した市民との協働による環境学習事業の推進	

◆環境指標

環境指標	基準値	現況	目標値
環境学習事業及び多摩川自然情報館で学習した延べ人数	12,403人 (令和元年度)	12,403人 (令和元年度)	12,450人 (令和7年度)

○市民・市民団体・事業者に期待される役割

- 環境学習や環境保全活動を体験できるプログラムに参加します。 市民 事業者
- 市民が環境保全活動を気軽に体験できる機会の確保に協力します。 市民団体

方針5-(2) 連携・協働による環境保全活動の推進



施策5-③ 活動の担い手となる人材育成と活動支援

◆現状と課題

■現状

- 市では、市民・市民団体・事業者で構成される「ちょうふ環境市民会議[§]」が中心となって、雑木林ボランティア講座[§]をはじめとする各種環境講座、がいせんウォークなどのイベントの開催、環境活動の交流会などを実施しています。また、多摩川自然情報館において、環境学習イベント、ボランティア解説員養成講座等を開催するなど、様々な主体が協力して市民の普及啓発、担い手育成を進めています。
- 市では、平成12(2000)年から市民との協働で崖線の保全活動を行っており、令和2(2020)年10月時点で市内7箇所[§]の崖線樹林地において、市民団体が崖線樹林地の保全活動に取り組んでいます。
- 調布こどもエコクラブ事業や調布市環境モニター[§]事業は、活動をサポートするボランティアサポーターが事業の運営を支えています。
- このほか、河川の保全、再生可能エネルギーの普及、環境学習活動、清掃活動等の取組を行っている市民団体が複数存在します。
- 多摩川自然情報館、市民活動支援センター、調布市文化会館たづくり内にある「みんなの広場」等は、環境活動団体等の活動の場として利用されています。
- 「花いっぱいサポーター養成講座」の受講生(花いっぱいサポーター)が、飛田給駅・西調布駅・調布駅周辺で花苗の植替えや水やりなどの維持管理活動を行っています。

■課題

- ボランティア活動に参加する人材を育成するとともに、環境活動団体等の支援を行っていく必要があります。



多摩川自然情報館ボランティア解説員養成講座



花いっぱいサポーターレクチャー風景

◆施策の方向

活動に参加する人材，活動をリードする人材を育成するとともに，市民，事業者，団体等の取組を支援し，連携・協働を推進します。

◆施策（取組）の内容と主な事業

■ 担い手の育成

雑木林の管理，地域の自然環境に関する普及啓発をはじめ，様々な環境分野で市内の様々な主体と連携し，活動に取り組む人材を育成します。



雑木林ボランティア講座

事業内容	担当課
● 雑木林ボランティア講座 [§] の実施による人材育成講座の実施 重点事業	環境政策課
● 多摩川自然情報館におけるボランティア解説員養成講座の充実 重点事業	

■ 市民・事業者による環境活動のための支援体制

市民・事業者による環境活動が持続的，発展的なものとなるよう，団体への活動支援や各種補助制度の情報提供，環境活動団体等の表彰の検討等を行います。

事業内容	担当課
● 崖線樹林地 [§] の保全活動団体への支援	緑と公園課
● 各種補助制度の情報提供	環境政策課
● 環境活動の担い手の人材発掘・育成	
● 環境活動団体等の表彰等の検討	
● 市民活動支援センターでの団体紹介	協働推進課

■ 環境保全活動の拠点となる場の提供

各種団体等の活動を促進するため、多摩川自然情報館、市民活動支援センター、みんなの広場、佐須農（みのり）の家等の公共施設や市の公園・緑地等を活動の場として提供します。

事業内容	担当課
<ul style="list-style-type: none"> ● 市民団体等への場の提供 	環境政策課 文化生涯学習課 協働推進課・緑と公園課



みのり
佐須農の家



多摩川自然情報館展示室

◆環境指標

環境指標	基準値	現況	目標値
活動の担い手となる人材の人数	135人 (令和元年度)	135人 (令和元年度)	170人 (令和7年度)

○市民・市民団体・事業者に期待される役割

- 調布の環境について理解を深め、市民団体や市民との交流を図りながら、調布市における環境活動を担います。 市民 市民団体 事業者
- 市民団体や市民との交流や連携を深め、環境保全活動の充実を図ります。

市民 市民団体 事業者



施策5-④ ^わ 様々な主体と活動の環の拡大

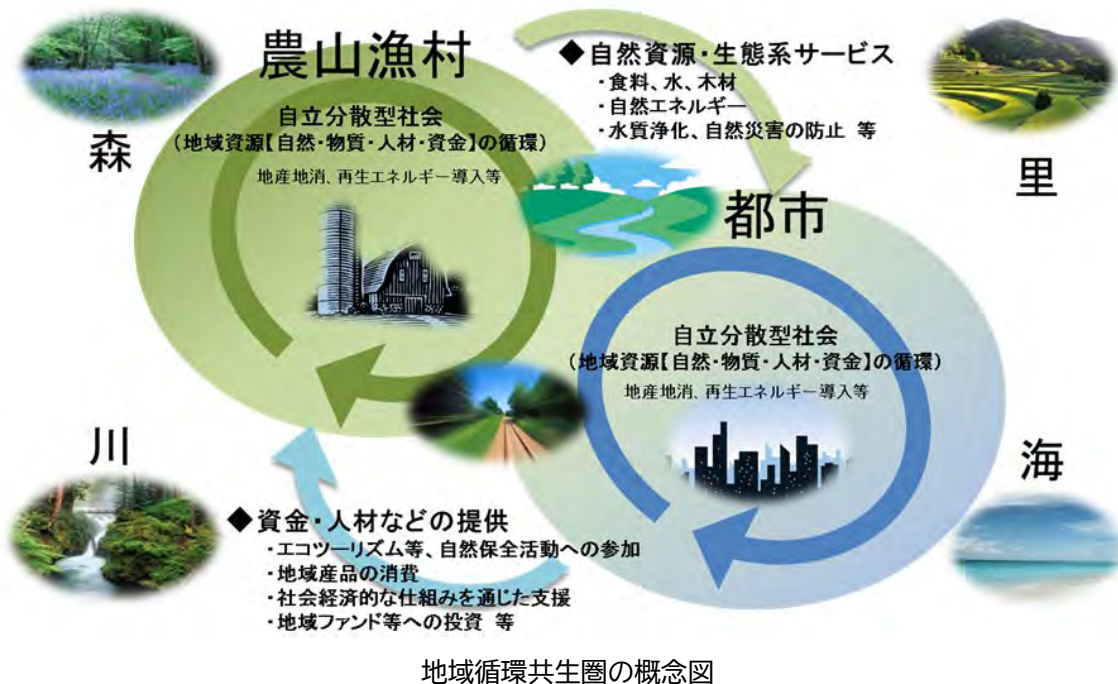
◆現状と課題

■現状

- 国の第五次環境基本計画では、様々な特性、資源を有する地域が補完し支え合うことで、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す「地域循環共生圏」の概念が提唱されました。
- 調布市では、環境活動交流会、雑木林連絡会等、環境活動に関わる人材、団体の交流機会を設けています。
- 平成 22 (2010) 年に多摩川自然情報館、平成 24 (2012) 年に都立神代植物公園植物多様性センター、平成 25 (2013) 年にふじみ衛生組合のクリーンプラザふじみが開設され、市民が環境に関して広く学べる拠点施設が整備されました。また、各施設が連携・協力し、環境情報の提供等を相互に行っています。
- 広域的な環境問題の解決に向け、東京都や多摩川流域、野川流域の自治体が連携する組織等に参加し、情報共有などに取り組んでいます。

■課題

- 市民・市民団体・事業者・市等の協働による環境保全活動の活性化を図るため、活動団体同士をはじめ様々な主体間の交流機会を設けていくとともに、他自治体など広域的な連携による取組を推進することが必要です。



出典：「第五次環境基本計画」

◆施策の方向

市民・事業者・団体等との連携を通じて、環境保全活動の環^わを拡大していきます。

◆施策（取組）の内容と主な事業

■ 各種団体等との交流支援・連携

様々な主体同士の情報交換や交流機会の創出、市と協力協定を結んだ教育機関との連携、企業の社会貢献活動との連携などを通じて、環境保全活動を促進します。

事業内容	担当課
● 環境活動交流会の開催 重点事業	環境政策課
● 環境フェアの実施（再掲）	
● 都立神代植物公園植物多様性センターやふじみ衛生組合との連携・協力による環境情報の提供等	
● 事業者等と連携した河川敷等での特定外来生物 [§] （植物）駆除活動の実施（再掲）	
● クリーン作戦 [§] や喫煙マナーアップ清掃の実施	
● 公共施設の屋根貸し事業者等との連携による省エネルギー・再生可能エネルギー等の推進	緑と公園課
● 雑木林連絡会の運営支援（再掲）	
● 緑と花の祭典 [§] の実施（再掲）	ごみ対策課
● エコフェスタちょうふの実施（再掲）	
● 事業者と連携したごみ減量キャンペーン等の実施	
● ごみ減量・リサイクル協力店 [§] の拡充（再掲）	



環境フェア

2019年第11回
環境活動
交流会

～ちょうふ再発見～
里山のあるまち

6月14日金～16日日
午前10時～午後6時
(14日午後1時から)

●会場：調布市文化会館たづくり
●8F映像シアター ●11Fみんなの広場

●講演会：「深・佐須の畑をたがやしたい」
～調布の里山保全と都市農業をどう活かすか～
講師：大塚山脚 子るん
(調布市の上野・調布市都市計画審議会会長)
齋藤 裕枝 さん
(NPO法人むさしの農業ふれあい村)

16日 ●午後1時30分～3時半(受付1時～)
●8F映像シアター

●交流カフェ：エネルギーや緑地保全、環境に関する色々な情報交換します。
「動くおうちができるまで」 14日 ●午後2時～
「プラスチックの行く先は…」 15日 ●午前10時～
「深・佐須の畑をたがやし隊」 15日 ●午後2時～
●11Fみんなの広場

●活動紹介
パネル展：14日 ●午後1時～/20日 ●4時まで
●11Fみんなの広場

●主催：調布市 ●企画運営：ちょうふ環境市民会議 連絡先：ちょうふ環境市民会議 info@chofu-kankyo-shimin.org

2019 環境活動交流会のプログラム

■ 広域的な連携の推進

環境マネジメントシステム⁸に係る自治体間相互連携や、多摩川・野川の流域自治体と河川環境の保全に向けた協議・意見交換や連携した活動を展開するなど、自治体間等の広域的な連携を推進します。また、姉妹都市の木島平村等と連携し、環境学習分野などでの連携事業を検討します。

事業内容	担当課
● 広域的な環境保全活動に向けた他自治体等との連携 重点事業	環境政策課
● 都立農業高校・相互友好協力協定大学との連携による環境学習の推進	環境政策課 文化生涯学習課
● 姉妹都市の木島平村等との広域的な連携事業の検討	

◆ 環境指標

環境指標	基準値	現況	目標値
環境連携事業数	58回 (平成26年度)	63回 (令和元年度)	70回 (令和7年度)

○ 市民・市民団体・事業者に期待される役割

- 他自治体等とも連携を図りつつ、広域的な環境保全活動に取り組みます。

市民 市民団体 事業者



野川流域の自治体で作成した「野川マップ」